## ■【参考】関連文化財群及びストーリーに関係する人物(開拓使)

番号	人物名	ストーリーの中の位置づけ	写真等
1	黒田清隆	・北海道開拓の礎を築いた人物。 ・明治3年(1870年)5月開拓次官となり、樺太 巡検の後献策して北海道開拓や札幌での本拠地 建設を方向付けた。 ・明治7年(1874年)、参議兼開拓長官となり、 開拓使廃止の明治15年(1882年)まで本道行政 の直接の責任者として活躍した。 ・アメリカから、農務長官のホーレス・ケプロン をはじめ、農学校教頭クラークなど偉材を招 き、北海道開拓に先進的技術を導入した。	※北海道大学附属図書館所蔵
2	ホ ー レ ス・ケプ ロン	・開拓使に招かれた外国人技術者(お雇い外国人) の1人。 ・明治4年(1871年)各分野の技術者等を伴って 来日し、北海道内各地を視察、調査しながら、 開拓使が取り組むべき事業について様々な提言 を行った。	※北海道大学附属図書館所蔵
3	ウィリア ム・ス ミ ス・クラ ーク	・マサチューセッツ農科大学の学長に就きつつ、開拓使の求めにより同大学長のまま、明治9年(1876年)6月に来日し、同8月開校の札幌農学校の初代教頭に就任。 ・日本での滞在は8ヶ月程度ではあったが、キリスト教精神に基づく人間教育等を行い、後に北海道の発展に貢献する人物を多数輩出した。	※北海道大学附属図書館所蔵
4	ベンジャ ミン・ス ミス・ラ イマン	・開拓使に招かれた外国人技術者(お雇い外国人) の1人。 ・明治6年(1873年)1月、来日した。 ・明治9年(1876年)5月、3年におよぶ北海道全 島調査は、地形測量すなわち地図作成という難 行を経て、日本最初の広域地質図幅「日本蝦夷 地地質要略之図」を刊行した。	※北海道大学附属図書館所蔵

番号	人物名	ストーリーの中の位置づけ	写真等
5	ルイス・ベーマー	・開拓使に招かれた外国人技術者(お雇い外国人) の1人。農業や園芸の専門家。 ・ホーレス・ケプロンの提言により、事業推進の ため、果樹園芸・植物生育分野の技術者として 雇用された。 ・ホップやりんごの育成などに尽力した。	※北海道大学附属図書館所蔵
6	エドウィン・ダン	・開拓使に招かれた外国人技術者(お雇い外国人)の1人。 ・明治6年(1873年)、アメリカから来日し、牛の飼育・搾乳技術の普及のみならず、バター・チーズ・ソーセージなどの乳や肉の加工技術も指導し、北海道における畜産業の普及に努めた。	※北海道大学附属図書館所蔵
7	N・W・ホル ト	・開拓使に招かれた外国人技術者(お雇い外国人) の1人。工業局器械場の機械方頭取。 ・明治5年(1872年)、開拓使の器械設計及び運 転の取締役として札幌に着任し、4年後の明治 9年(1876年)に帰国するまで、バルーン・フレ ーム構造を用いた鋳造所や蒸気木挽機械所等 や、日本初の西洋式橋となる豊平橋を設計する 等、道内における文明開化に貢献した。	_
8	トーマス・アンチセル	・開拓使に招かれた外国人技術者(お雇い外国人)の1人で、化学担当主任。 ・明治4年(1871年)、道内の地質などの調査時に、現在の岩内町で野生ホップを発見し、翌年、日本でも将来ビール産業が盛んになるという予見のもと、また北海道の気候を活かすことで輸出できるほどのホップの収穫が可能だと見込み、開拓使にホップ栽培を建言した。	_

番号	人物名	ストーリーの中の位置づけ	写真等
9	村橋久成	・明治4年(1871年)、開拓使東京出張所に出 仕。明治8年(1875年)、開拓使が計画中の麦 酒醸造所の建設責任者となる。 ・村橋は、ビール造りに気候が適しており、麦酒 醸造所を北海道に建設すべきと主張し、明治9 年(1876年)、麦酒醸造所が札幌に開業した。	※北海道大学附属図書館所蔵
10	中川清兵衛	・慶応元年(1865年)、17歳の時にドイツに渡った。青木周蔵(のちのドイツ公使)に出会い支援を受けてビール醸造法を修業し、日本人で初めて、ビールの本場ドイツの名門会社で本格的な麦酒醸造法を会得した。 ・帰国後、開拓使麦酒醸造所の技師となり、日本の「麦酒醸造人」のパイオニアとなった。	-
11	永山武四 郎	<ul> <li>・「屯田兵育ての父」と呼ばれ、屯田兵の設置・ 育成に尽力した人物。</li> <li>・明治5年(1872年)、開拓使に出仕、屯田兵設 置に尽力し、明治11年(1878年)に屯田事務局 長となる。</li> <li>・明治21年(1888年)、第2代北海道庁長官となり、明治29年(1896年)、第7師団長となった。</li> </ul>	※北海道大学附属図書館所蔵
12	岩村通俊	・明治2年(1869年)、開拓使の判官となり、同4年には島義勇の後を継いで札幌に常駐し、札幌本府の建設に精力を傾けた。 ・札幌創建に弾みをつけた人物で、仮本庁、官邸、倉庫、宿舎、さらには偕楽園、薄野遊郭を開設した。 ・明治19年(1886年)、北海道庁が置かれ、初代長官となった。	※北海道大学附属図書館所蔵

## ■【参考】関連文化財群及びストーリーに関係する歴史上の事物 (開拓使)

番号	事物名	ストーリーの中の位置づけ	写真等
1	南1条~北1 条の創成川 以東一帯に あった工業 局器械場	・明治5年(1872年)、開拓使がN・W・ホルトらの指導を受けて南1条〜北1条の創成川以東(東1丁目〜4丁目)一帯に様々な工場などを設けたところ。	※北海道大学附属図書館所蔵
2	サッポロフ ァクトリー 周辺にあっ た葡萄園	・明治 11 年 (1878 年) には現・サッポロファクトリーの東隣に葡萄園が作られた。そこで栽培された葡萄は葡萄酒醸造所で生産されたワインの原料となった。	※北海道大学附属図書館所蔵
3	開拓庁もリたの場が出り、	・ケプロンによる提言に基づき、明治 7 年(1874年)に開拓使札幌本庁舎敷地 内にもリンゴやナシなどが植えら れ、農業試験場の役割も果たした。	_
4	北2~5条西3 丁目にあっ たホップの 農業試験場	・明治9年(1876年)にはホップ栽培を開始し、北海道の気候がホップ栽培に適していることから、明治10年(1877年)、小樽通東側通(北2~5条西3丁目通)に園地を設けて栽培した。	※北海道大学附属図書館所蔵
5	麦酒醸造所	・明治5年(1872年)、札幌を視察した トーマス・アンチセルが北海道に自	

番号	事物名	ストーリーの中の位置づけ	写真等
		生しているホップを見て、北海道での麦酒醸造を勧めた。 ・明治8年(1875年)、ドイツで麦酒醸造の技術を習得して帰国した中川清兵衛を雇い、翌9年(1876年)に麦酒醸造所を北2条東4丁目に設けた。 ・民間への払い下げ後、明治25年(1892年)に建てられた現存の工場(現・サッポロファクトリー)は、	※北海道大学附属図書館所蔵
6	現・知事公館周辺にあった桑畑	風格のあるレンガ造の建物である。 ・明治8年(1875年)開拓使は、北1~ 10条、西11~20丁目の地域を全部 桑畑にする事とし、開墾を進めた。 ・明治45年(1912年)、現在の知事公館 の場所に、桑園の歴史を後世に伝え るため、「桑園碑」が建てられた。	_
7	創成橋	・明治4年(1871年)、現在の南1条通 の「大友堀」に架けられた橋が岩村 通俊判官により創成橋と名付けられ た。 ・写真は、1871年撮影。	※北海道大学附属図書館所蔵